



# 共同通信



2007年10月7日 134号(344号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22  
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 34

『なにもない1日～ある9月の月曜日のこと～』

今日は朝から予定が全くナシ。  
NHK朝連続ドラマ『どんと晴れ』を見ながら、今日は何をしようかなと考える。ふと、横で長男がドラマの主題歌を歌えるようになっていることに驚く。君の口から小田和正が流れてくるとはねえ～、へ～、ほほ～。コーヒーを飲みつつ、子どもに今日の希望を聞いて見ると「おにぎり持ってカブト山登りに行こう。」とか「公園で水遊び！」とか。雨が降っているのにどちらも全くもって現実味がない。母が真剣に考えているのとは裏腹に、子どもたちはブロックに夢中になりはじめた。ならばもう少しのんびりさせてもらうこと

にしよう、台所に果物を取りに行ったら瞬間に、リビングから「ママー！」と次男の声。リビングに脱糞と水溜り発見。「動いちゃだめ！」とかなきり声で5回ほど叫んだらどうか、雑巾で拭き、次男をそのまま風呂場へ運ぶ。キャッキヤと喜んで足をバタバタさせるものだから、私にもおしっこがついてしまった。

ああ、1日が始まったな～と思う。こんなので彼はプレッぽに行けるのか少々不安がよぎる。しかし本人は半年前から幼稚園へ行く気マンマン、ぼおくたちは～わたしたちは～すうばらしい～なかまたち～と、風呂場で熱唱である。 1

早目の昼食をすませたら雨があがった。散歩がてら買い物にでかける。子どもたち、蝉を見つけては「これは何セミだ？」と確認作業。さらに進んでいくと今度は左手に田んぼが現れる。鮮やかな真っ青な田んぼから、穂をつけて金色になっていた。「あの穂の中には何が入っているでしょう？」次男は「おならブーが入ってる！」話にならない。長男は「お米！」と大正解！鼻の穴全開で得意顔だ。最近ハマっている縄跳びを飛びながら（いやいや縄にもつれながら？）道を進む。ポケットに入れた油性ペンで手のひらに数字を書くために立ち止まり、そしてまた進む。手のひらは真っ黒だ。「先生みたいに、くまさん書いてよ。」といわれるものの、苦心の作は、見たことのない化けものとなりブーイングを受ける。

買い物が終わり、来た道を同じことをしながら帰る。行きと違うのは片手に荷物を持っているので、時折どっちがママと手をつなぐかとケンカが勃発することだ。二人の男性から手を握りたいと迫られて幸せ者だと思いながら家路を急ぐ。

昼寝する気配はなく、ウルトラマン人形で家族ごっこがはじまる。ウルトラの母の出番はなさそうなので、私は台所へ。間もなく昼寝しそびれて機嫌の悪くなった次男がまと

わりついてくる。おんぶをせがまれ、しょうがなくおんぶをすると私の背中で本日2度目のうんちをした。長男がジョンジョロジョーンと広がる水溜りをみながら歌いだす。次男も大喜びでジョンジョロジョーンと歌う。みんなで風呂場へ走り、シャワーを浴びて体を拭いてふと見ると、次男は真っ裸でソファにて夢の中へ。そっと布団へ移す。

庭の菜園へ水遣りに出ると、おくらの花が3つほど。しあさってくらいにはおくらのお味噌汁をいただくことができそうだ。

長男と二人で晩御飯を食べた。たまの次男の早い就寝は、長男のとおきの時間となる。邪魔されずひざを占領してドスンと座り、抱っこされながらテレビをみて笑った。「三びきのやぎのがらがらどん」も読んだ。寝る瞬間に長男満面の笑みで目をつむった。この笑顔でごはん大盛り5杯はいける。平和な1日だった。

戦争を止める権限も何も市場をにぎわすような生産性もないわたしたちだが、少なくとも今日のあちこちに平安な時間を作り出した。

先日、公同教会の障害児・者情報センター主催の障害者自立支援法勉強会に参加した。私は子どもが生まれるまでの向こう側10年間、精神に障害を持つ人たちの通う福祉施設

で働いていた。退職してわずか4年で彼らを取り巻く法律が大幅に変わってしまい、勉強会を通して、その内容に改めて危惧の念を抱いた。

日本で流行の新自由主義というやつ、生産性がものを言う。毎年3万人を越える自殺者が出る中、それをあたかも個人の責任のようにばっさり斬る風潮や、低所得者や障害者など社会的に弱い立場にある人間への締めつけを目の当たりにする。自由競争とか改革とか自己責任とかの名の元において、セーフティーネットがないことが常識として押し付けられるこの国の現実の中、美しい国という言葉はただただ空虚感しか持ち合わせていない。オルタナティブな時代の姿を考えるとすれば、上昇志向でもなく何も難しいことではなく、人の痛みに寄り添うことだったり、お互いさまを知ることだったり、相手の気持ちを想像することだったり、弱さを絆にすることからは

じまるような気がする。人が生きる時、さまざまな営みは輪切りにして区分を押し付けられるものではなく、東洋の切れ目のない空のように、つながりの中にあるものだと思う。今日もまた、物語のつづきを子どもたちは生き続ける。

あしたもどんど晴れ。

(下郡 知子)

### 日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を説き会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

あかして ちかして 一日がゆく あかして わかして 一日がゆく  
 さかぬい ぼかぬい 一日がゆく あたて くだて 一日がゆく  
 いし加減に悟ればどかと 低 招 鬨い 蹴れば 掌は返る  
 敵 (かたき) は増える ぞれぞれと やさし人を おおお探して 留めます  
 野望はあるか 義はあるか 情 (なさけ) はあるか 恥はあるか  
 あに本日 未熟者 わたし本日 未熟者  
 あに本日 未熟者 わたし本日 未熟者  
 (『本日未熟者』 申島みゆき)

ヨハネ福音書の“奇跡物語”の一つ“死んだラザロの復活”は、物語の展開としては、いろいろ不自然です。“病人”として連れてこられ“イエスによる病気の治が期待された”ラザロのことで、最初「この病気は死ぬほどのものではない」とイエスは言っていました。その後で、「...ラザロが眠っている、わたしは彼を起こしに行く」になり、更にそれは眠っているのではなく、実は「ラザロが死んだこと」をそのように言ったのだと“訂正”されます。“死ぬほどのものではない”と言っていたのに、“いや眠っているのだ”“実は死んだのだ”になったりコロコロ変わったりするという意味で、不自然なのです。

ヨハネ福音書は、こうした不自然さについての“異議”も伝えています。「あの盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようには、できなかつたのか」と。しかし、死なせないようにできなくてではなく、敢えてしなくて、ラザロは死んでしまいます。そして「死んだラザロの姉妹マルタが言った。『主よ、もう臭くなっております。4日もたってい

ますから』」などのやりとりがあって、イエスが神に願い、「死人は手足を布でまかれ、顔を顔おおいで包まれた」まま自力で歩いて墓から出てくる、死んだラザロの復活という“究極”の奇跡が起こります。ここまでの不自然なやり取りは、究極の奇跡の伏線であつたらしいことが判明します。判明することになったのだと思うのですが、それにしても、死ぬほどのものではないはずのラザロを死なせてしまって、更に腐らせてそのあげくの復活は手が込んでいます。

そもそも、病気のラザロが連れて来られた時に、そのことへの対応は何一つとられることはなく、最初から別の答えや展開が意図されていました。「この病気は死ぬほどのものではない。それは神の栄光のため、また神の子がそれによって栄光を受けるためのものである」と。ヨハネ福音書11章1～43節の死んだラザロがよみがえる、長い“奇跡物語”で繰り返し直接、間接に言及されるのが“神の栄光”“神の子の栄光”です。病気なんだから、死ぬはずのなかつたラザロが死んでしまったことを告知する場合に

も「ラザロは死んだのだ...それはあなたがたが信じるようになるためである」と“信じる”ことが話題の中心になっています。後に続く、死んだラザロのことでの、マルタ、マリア姉妹とのやりとりでも、ラザロはきっかけではあるのですが、話題の中心は「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」という“信仰問答”にあります。マルタはと言えば「主よ、信じます。あなたはこの世に来るべきキリスト、神の御子であると信じております」と、“信仰告白”で答えます。

信仰問答と信仰告白になるのですが、マルタ、マリアによって「主よ、もしあなたがここにいて下さったら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」という、生身のラザロのことはそのまま残り続けます。そのことで「激しく感動し、また心を騒がせ」「涙を流された」など、後半では感情丸出しのイエスが登場することになります。大丈夫だったはずのラザロが死んでしまって、やっと感情をあらわにすることになったイエスが、ラザロの葬られた洞穴に出向きます。そして実現することになったのが“死んだラザロの復活”の奇跡です。この奇跡の実現にあたって、ヨハネ福音書は、そこに働くのは神の力であること、その神の力を体現するのがイエスであることを短い言葉で表現しています。「父よ、わたしの願いをお聞きくださったことを感謝します。あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることをよく知っています」が、そ

れです。

“わたしを信じる者”“わたしの願いをお聞き下さった”などで、“わたし”のことが繰り返し強調されます。神の栄光という、少なからず遠い問題は、こうして“わたし”が介在することによって、そんなに遠いものではなくなります。あるいは、わたしにおいて実現することで、イエスが神の栄光の体現者であることも明らかになります。それを“願って”そして“聞かれた”と伝えることで、ヨハネ福音書の読み手に対しても“願う”こと、“聞かれる”ことの意味の深さを示唆しているのかも知れません。

(菅澤 邦明)

## アコーク回一通信(114)

9月の初め、韓国に行ってきました。沖縄戦当時日本は大勢の朝鮮の若者を「軍夫」というかたちで連れてきて、日本軍の人夫、過酷な肉体労働を強いました。結論を先に言えば何人の朝鮮人が沖縄に連れてこられ、何人が死に、何人が生きて朝鮮に帰ったかわかりません。沖縄戦の説明をする時「1万人とも2万人ともいわれる」とか、「3万人」という記述さえあるのです。しかし「根拠」はありません。だからといって、根拠がないから「なかった」わけではありません。私の手元に3000人余りの沖縄戦時の朝鮮人軍夫名簿があります。何人かの生存者の記録もかつて出版されています。その軍夫にされた姜仁昌(かん・いんちゃん)さんをお訪ねしてお話を伺い、合わせてソウルの日本帝国主義時代の歴史研究機関でいくつかの資料を確認することが目的でした。姜さんのお住まいは、慶尚北道英陽郡(きょんさんぶつと・よんやんぐん)という小さな村です。ソウルから高速バスで6時間余り、鉄道の駅のないところです。大きなビルもなく、唐辛子とりんごの生産地です。バスターミナルから数分のところにお一人でお住まいの姜さんは86歳。1944年の夏に当時の警察や役場の職員に「国内で飛行場の建設」という説明で、沖縄まで連れてこられたのです。わずかな食料で過酷な労働を強いられ、多くの同胞の死をも目撃しながら、1

946年帰国することができました。四代目のクリスチャンとして教会生活を忠実に守り、また連行の事実を明らかにする活動などを継続され、沖縄にも戦後何度か訪れています。ともあれ、韓国語がお分かりの方は想像できると思いますが、慶尚道ナマリの、86歳の方のお話ですので、大変でした。で、この「こちゅじゃん」メチャクチャおいしいのです。

ソウルでは関連して民間の「民族問題研究所」と政府機関の「日本帝国主義強制動員真相糾明委員会」を訪ねました。民族問題研究所はまもなく「親日派人物事典」を発行する予定でそのため多くの研究者を得て、資料の収集と執筆の準備をしています。地下に当時の実物資料が多数あり、それだけで「博物館」になりそうです。研究者と昼食を共にしながら今後の交流を約束しました。「真相糾明委員会」は韓国政府による「補償」業務とそのための裏付けになる資料の収集、調査、検討のための機関です。ここにも膨大な資料があり、むしろこちら側が何を求めているか明確にして訪ねなければなりません。その意味では、今回は顔つなぎということになりました。「沖縄戦と朝鮮人」というテーマは、沖縄でもまだ十分に検討されている訳ではありません。だから冒頭に書いたような不確かな言い方しかできていないのです。姜仁昌さんとの出会いや膨大な資料を通して

多くの人に伝えたいものです。ソウルの映画館で、1980年のいわゆる「光州事件」を描いた映画「華麗なる休暇」も見ました。思い入れがありますから涙、涙でした。

さて、9月29日、沖縄では11万人が結集して「県民大会」が開催されました。文部科学省による教科書検定意見の撤回を求めるもので、高校歴史教科書の検定で「日本軍の強制による集団自決」という記述が削除されたことへの怒りの集会でした。「島ぐるみ」という言葉がありますが、県知事や県議会議長といういわゆる保守層・自公

までも参加した、予測を超えた人数になりました。宮古や八重山でも集会がもたれました。11万人の熱気はものすごいものでしたが、先に書いた「沖縄戦と朝鮮人」というテーマや、まして日本のアジア侵略そのものを問うものではなく、現在まで続く米軍基地にも言及するものではありませんでした。また、今後「沖縄戦の歴史的研究」を継続し蓄積することにも疑問が残ります。けれども翌日の沖縄タイムスや琉球新報からはその様子がわかります。ぜひごらんください。

(沖縄 与那原 愛の園 後藤 聡)

## ゆうびんはいたつえっさっさ～

まだまだ暑さが厳しい中、2学期が始まりました。真っ黒に日焼けしていたり、背が伸びたり～と、夏休み前と比べて少し大きくなったお友達。「うみにいって来たよ!」「おばあちゃんのおいえにあそびにいって来た。」と、夏休みの楽しかったことをたくさん教えてくれたのでした。

幼稚園に大きなお客様がやって来ました!朝、園庭に集まった子どもたち。そこへ布に包まれたお客様が台車に乗って運ばれてきたのです。何が入っているんだろう～??と皆ワクワクしていました 布をめくってみると...

出てきたのは大きな大きなスイカだったのです!!今まで見たことのない大きさに、子どもたちもそして大人たちも「えーーーー!?」ってびっくりしてしまいました!重さはなんと70kg!体重計に乗ってスイカと重さ比べをして楽しみました。大きなスイカに興味津々の子どもたちは、触ってみたり、匂ってみたり、叩いてみたり、持ち上げようと試みたり～…。たくさん子どもたちが周りを囲んでもビクともしない、とても立派なスイカでした。後日、このスイカを包丁で切り、みんなで味わう時間を持ちました。

ゆうびんはいたつえっさっさ～てがみをはこんでえっさっさ～ と、郵便ポストを探して幼稚園を出発しました。おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に過ごす“おはぎパーティー”。その招待状を投函しに行きました。招待状は子どもたちの手作りで、とんぼや彼岸花と、とっても秋らしい素敵なハガキに仕上がりに、一人ずつポストへ投函しました。いつも投函している自分の家の近くにあるポストじゃないと届かない・・・と心配しているお友達もいましたが、「どこのポストでも郵便屋さんが届けてくれるよ。」に、ホッと安心して、そして後日「おばあちゃんのおうちにとどいたって！」としっかり報告してくれたのでした。そして待ちに待ったおはぎパーティーの日。たくさんのおじいさん、おばあさんが幼稚園へと来てくださいました。「おばあちゃんがきてくれるんだよ」と朝からとても楽しみにしていたお友達。礼拝堂での時間は、年長さんの歌声を聞いてもらったり、プロジェクターで幼稚園での子どもたちの様子を見ていただきました。そして、各部屋に分かれてクラスでの時間を過ごしました。ぼっぼぐみのおもたちは、おじいちゃんやおばあちゃんを見つけるとニッコリ笑顔になり、おばあちゃんたちももちろんニッコリ笑顔 その光景を見ているだけでとても嬉しい気持ちになりました

た。まず初めに元気な歌声を披露し、役員さんが作ってくださった“おはぎ”をみんなでいただきました。きなことあんこのおはぎ、とてもおいしくて「おかわりちょうだい～！！」とたくさん食べたお友達でした。おじいちゃんやおばあちゃんの膝に座ってわらべうたを楽しみ、温かい腕の中でみんなの笑顔が輝いていました。とても素敵な時間を過ごせたこと感謝いたします。

だんだんと涼しくなり、秋の気配が感じられるようになりました。深まっていく秋を身体全体で感じ、喜び、いろいろなものを味わいながら、今しかない一瞬一瞬の毎日を楽しんでいきたいと思っています。

(近山 佳奈)



## 今月のあ・そ・び “ 恐竜の卵 ”

子どもたちと、“翼竜展”(大阪市立自然史博物館)に出かけケツアルコアトルスの復元骨格などを見上げたり、“丹波竜”(ティタノサウルス類)の化石の一部を“人と自然の博物館”で見たり、丹波市下滝沢に近い発掘現場を訪ねたりしました。1億5千万年前に地球上に君臨していた恐竜たちの化石は、ほんのかけらでも“ホンモノ”です。気の遠くなるような、遠い遠い昔に巨大な恐竜たちが、想像ではなく、本当にしのぎをけずるように生きていたことを示す“証拠”が、発掘された化石です。

小指の先より小さい白い花が、オオカナダモの水中の茎から首を伸ばし、なんとか水面に届いて花を咲かせているのを見つけて驚きます。彼岸花が、土の上いきなり芽をだして、あれよあれよという間に伸びて、赤い“糸”の完璧な配置で咲かせる花にも驚きます。遠い遠い昔、地球の支配者として君臨した巨大な恐竜たちの生きた事実が、1億5千万年の時間を経て見つかったりするその“物語”に感動します。

小黒三郎さんは、いくつかの恐竜の組み木をデザインしています。“翼竜展”のケツアルコアトルスの組み木は、“ゆらゆら人形”のデザインに

なっています。“翼竜展”の時には、小黒三郎さんのケツアルコアトルスのゆらゆら人形を、記念に届けてきました。そんなことと、“翼竜展”のチラシなどを小黒さんのところに届けたところ、ケツアルコアトルスのデザインの“訂正版”を届けてくださいました。訂正版には、“トサカ”が書き加えられていました。さっそく、赤いトサカ付のケツアルコアトルスを糸のこで切って小黒さんに届けました。

そんなこともあって、恐竜の卵の昇り人形の組み木に挑戦しています。恐竜の卵の昇り人形の糸を引いて上げていくと、卵が割れて恐竜の赤ちゃんが二匹現れるという仕掛けになっています。中が空洞の卵は、なんとかできましたが、昇る段になって下半分が残ってしまったりと、1~2個失敗しました。恐竜の赤ちゃん以外に、ヒヨコや、沖縄島北部の“ヤンバルクイナ”の赤ちゃんなども挑戦中で、11月10日の共同まつりにデビューさせる予定です。

(菅澤 邦明)

# 大切な贈り物・津門川 62

『 津門川川掃除に参加して 』

と、書くと初めての川掃除ように聞こえますが、川掃除には何回か参加させてもらってます。ただ、いつも出だしが遅いので、着いた時には既に先行部隊が川に入った後。いつも、ゴミかごを引き上げたり、川縁の草を鎌で刈ったりしておりました。今回もいつものように鎌部隊だと思ったら、何とゴム長が残っているではありませんか。喜々としてゴム長を履き、川に降り立ったのであります。流れは膝より深くて、足下はぐらついていて、これが思ったより大変。上から見ている時は「夏は涼しげでいいなあ」と思っていたのですが、実態は風の流れが悪かったせいか、かなり暑い。まさに「見るとやるとじゃ大違い」というやつです。

さて、その津門川ですが、月1回掃除をするということは、月一回掃除するくらいのゴミがあるということです（毎日掃除するくらいのゴミがある我が家と比較すると、津門川の方がキレイということになります）。で、そのゴミの内訳ですが、葉っぱや水草の切れ端は致し方ありません。アメちゃんやお菓子の袋は、本人の意思と裏腹に、風に飛ばされたりす

るので、大目に見ます。空き缶、カップ麺のカップくらいになると、トホホな気持ちです。しかし一番トホホなのがタバコの吸い殻。こればかりは情状酌量の余地はありません。「吸い殻をポイッと捨てる裕次郎がかっこいい」のは裕次郎がかっこいいのであって、吸い殻を捨てるのがかっこいいわけではないというのを、半世紀かかっても学習できないというのは本当に困ったものである。

困ったものといえぼうちの娘。父がほったらかしで入水してしまっても、ちゃんと対応してくれたのはありがたいのだが、父さんが川を掃除している絵を描いてと頼んだら「いやぱー」と来ました。さて、この文章に愛娘の描いたカットは載るのでしょうか？

（武田 恒雄）



## 2007年10月 あんなこと こんなこと...

- ・ 1日(月)午前6時30分～、早天祈祷会
- ・ 2日(火)午前11時～、アートガレージ運営委員会
- ・ 8日(月)午前8時30分～、教会学校六甲登山
- ・ 9日(火)午前10時～、ゆっくり聖書を読んでみませんか
- ・ 16日(火)午後3時～、教会学校教師会
- ・ 25日(木)午後5時～、第8回教会教育研究会、西宮公同教会集会室

### にしきた商店街...

- ・ 10月 7日 (日)午後12時30分～ “津門川掃除”
- ・ 10月 13日 (土)午後3時～、  
「ストリート・ミュージシャン・コンテスト」決勝出場者による街角ライブ  
場所：15時～16時はアクタ西宮円形デッキ  
18時～19時はにしきた駅前公園
- ・ 10月 20日 (木)午後3時～、  
“にしきた音楽祭”にしきたLALALAフェスティバル”  
場所：芸文センター前高松公園

### アートガレージ

- ・ 10月 2、16日(火)野菜市
- ・ 10月30日 (火)アートガレージ運営委員会

### 関西神学塾

- ・ 10月12日(金)午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(26)
  - ・ 10月19日(金)午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(2)
  - ・ 10月26日(金)午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(42)
  - ・ 11月 2日(金)午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(27)
  - ・ 11月16日(金)午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(3)
  - ・ 11月18日(金)午後7時～9時 講師 岩井健作 「岩井健作」の宣教学(55)
  - ・ 11月29日(金)午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(43)
- ・ 田川建三『新約聖書・訳と註 第3巻パウロ 書簡その1』7月発行。購入をご希望の方は教会事務所(菅澤)まで。

## 教会学校から

### 《9月の活動報告》

9月2日(日)

作って食べる

そうめんチャンプルを食べる

ゴーヤ生かじり大会!

9月9日(日)

ゲーム遊び

キャンプ・ビデオ上映会

9月16日(日)

ちょっといいこと

甲風園シルバー会の方と過ごす

9月23日(日)

作って遊ぶ

津門川川魚調査!

アユ(?)を捕まえる!

9月30日(日)

ちょっといいこと

キャンプ・ビデオ再上映会

### 《10月の活動予定》

10月7日(日)

作って食べる

日本の消費している穀物について学ぶ

おにぎりを作って食べる!

10月14日(日)

ゲーム遊び

わなげ大会!

10月21日(日)

ちょっといいこと

幼稚園の子どもと遊ぶ

10月28日(日)

作って遊ぶ

公同まつり準備

## まいのなんでも案内

すっかり秋ですね。季節の変わり目ですが皆さん風邪などひいてはいらっしゃいませんか。先月は休載させていただきまして、失礼いたしました。夏休みをしっかりと満喫しまして(遠出は全くしていませんが・・・)やっところさ後期です。二ヶ月の夏休みの間に時間割すら忘れてましたが、3回生後期も頑張っで大学生活を楽しみます。とりあえず十月は週3でバイトと週1で飲み会とカラオケと、あと本業(学業)も勿論。体調には気をつけます。

さて、そんな多忙な生活を送る私の必需品、主に5つございます。今回は、そんなワタクシの趣向を紹介しようと思います。

1つめ、活字。これは外せないでしょう。普段から「衣食住語」を提唱しておりますように、物心ついた時から今まで、本のない生活は考えられません。気分によって読むものは様々ですが(というか何でも読む)近頃は専門の児童文学はお休み気味です。現代日本の作家ですと、意外に月並みに、よしもとばななと梨木香歩が好きです。あと村上春樹も気付いたら買ってしまってるから好きなのかも。それぞれについて語りだすと本当に長くなるのでまたいずれ。というか一緒に語ってくれる方募集中です。この夏はよしもとばななさん

の本無しには乗り切れませんでした。

2つめ、美味しいモノ。特に甘いもの。ケーキバイキングでは、同行者が引くほど食べます。二年前、普通のお店のケーキサイズで9個食べたことがあります(しかもその後夜ご飯も食べた)。恐るべし十代、ですね。あと好きなのは小麦粉とかバターとか牛乳とか使ってるもの、つまりはカロリーー高そうなもの。でも肉より魚派。和食より洋食派。研究室の合宿で3日間和食を食べ続けたら、パンが食べたくなくなって仕方なかったのには、自分でも日本人としてどうかと思いました。別に和食も好きなんですけど・・・どうにも。牛乳は独り暮らしでも2日に1リットルは飲んでます。でも背は160センチ止まりです。紅茶とコーヒーも中毒です。カフェイン系の飲み物は肌に悪いらしいので控えなきゃ、とは思いますが・・・。

3つめ、睡眠。一日7、8時間寝ないとやってけません。座布団一枚あればどこでも寝られます。あと、小さい頃から乗り物酔いしやすくて、酔わないために乗り物内では寝るようにしてたら、車とか電車とか、乗った途端に眠くなる、という性質があります。おかげで修学旅行とかの飛行機内も新幹線内もちっとも楽しんだ記憶がない(笑)。毎日ちゃんと寝る

とお肌にもいいですしね！でも睡眠時間を重視する余り、すぐ昼夜逆転生活になっちゃうんで本当ダメです。もともと23時以降にテンションが上がる夜型なので・・・低体温低血圧で朝は弱いし寝起きも悪いし。寝起きにまつわる笑えないエピソードは数知れず。社会人になるにあたってこれは何とかしないと、です。

4つめ、お洒落。そんなお洒落さんでもないんですが、そして衣装道楽でもないんですが(980円で買ったジーパンを5年愛用中) やっぱ着るものとか化粧品とかを見たり選んだり買ったりするのは大好きです。特に去年あたりからは、学生の内しかできない格好をしてやろう！と、色んな格好をしていたら「どこで買うの？(そんな服)」とか「独特だよね」とか言われることが多くなり、内心してやったりといった感じです。基本的には、自分に似合う格好を選んでいるつもりなので、他人からの評価は無視です。いや一応TPOは考えますけど。あと1年は楽しめます。

5つめ、音楽。某レコード屋ではないですが、リアルに「NO MUSIC NO LIFE」だと思ってます。何の楽器もやってませんが、よく歌ってます。とにかく歌うのが好きだし、ストレス解消になるし、カラオケに誘われたら断りません。ちょうど一年前に紹介したRADWIMPSもすっか

り売れっ子で、嬉しいような寂しいような。でもそれ以上にファンな、椎名林檎さん率いるバンド、東京事変がこの秋は活発に活動されているので非常に嬉しい限りです。KREVA氏もアルバム出してくれたし、今年いっぱい乗り切れそうです。11月には東京事変のライブに行ってみますので、いつかその紹介もできたらいいな、と。本当に魅力的な方々なので。

やっぱり好きなことだと長くなってしまいますね。まあ、大体こんな感じの趣味嗜好で、乗り切っていこうと思います。皆様も一度、自分の生活必需品、考えてみるのもよろしいかと思えますよ。それでは。

(高橋 舞)

## つとがわ 編集後記

沖縄で咲く桜、“ひかん桜”は、沖縄島より北の沖縄島より寒い沖永良部などで咲いて、桜前線は南下するのだと聞きました。9月26日に、幼稚園の子ども達と“丹波竜”の化石、発掘現場を訪ねた時、たんぼの土手などでひがんばなが満開でした。ひがんばなも、北の方から開花し始めるのだそうで、西宮などの阪神間では、今年10月5、6日で満開になりました。幼稚園の畑でも、阪急電車沿いに、約800本のひがんばなが咲いています。それにしても、このあたりのひがんばなが10月になって咲き始めるのは、はじめてのことです。しかも、一斉にはなくて、同じ場所のひがんばなが1週間から10日間くらい間をおいて咲いています。(K)

私の大好きな季節がやってきました！スポーツの秋、読書の秋といろいろありますが、やっぱり私は食欲の秋！！先日、子どもたちと畑でいもほりをしてそのおいもを味わったり、幼稚園に届けられたナシやブドウなども味わいました。まだまだこれからいろんな秋の味を楽しみたい。(Y2)

いつ涼しくなるのかなぁ、と思っていましたが、最近やっと秋を感じられるようになりました。先日、家で初サンマを味わいました。すだちをたっぷりかけて～やっとこの時期がきたー！と嬉しくなりました。サツマイモにクリに美味しいものがいっぱいこの季節が大好きです！食べすぎに気をつけなければ...と思う今日この頃です。(N)

『さて、私は誰でしょう～？』赤いです。緑の一本足で立っています。花火みたいと言われたりします。いろんな名前がありますが、だいたい五文字で呼ばれます。幼稚園にもいます。私の友達には白い人もいるし、黄色い人もいます。

おわかりですか？.....彼岸花です。鮮やかな赤色に目を奪われます。年長の子どもたちと出かけた三田、篠山、有馬で見かけてとても綺麗でした。幼稚園の畑のも、もちろん綺麗です。秋が少しずつ深まっていきますね。(I)

“「やるか、やらないか」で悩むより「どんないいものをつくろうか」と悩め”。

新作和菓子を作ってみては～という機会に困惑を表した弟子に親方が言った一言(コミックの中の話ですが)。いいわねえ。大好きです、そういう姿勢。

私もいつもその姿勢でいたいと思ってきました。そしてやれたことに満足した時についてくる結果に励まされの日々でした。で、「我が人生に悔いなし！」。娘が12月に結婚します。そんな人生を送ってほしいな。親子共に開口一番出した希望は「西宮公会堂で多くの方々に見守られて結婚式をすること」。ぜひどなたでも拍手を送りにきてやって下さい。思いがけない人がバージンロードを歩くのを見れるかも。(J)